

度三重塔と樹木高齋の面影をいまに伝えてゐるが、寺町の歴史を物語る記念碑は数度の洪水と四度の火災で失われたといふ。最後の參詣は、通称帶江の洗わすの觀音さんといわれる、真言宗景光山觀音寺で、本尊は十一面觀音、開基は天平年間のこと。この觀音に祈願して生れた子は、無病息災で、きれいな子に育つといわれ、遠方からも参詣者が多く、隆盛の寺である。

境内には倉敷市天然記念物のに向の松といふのがあり、先半巡拝した沙美本性院の雨笠松に劣らぬ美事な老松であつた。又境内からは工事中の、早島インター、エンジや、瀬戸大橋への道路も見渡せた。以上今回巡拝の七ヶ寺の私なりの印象を記したが、筆を進め、ふと思いついた言葉があるが、それは、宗教の施設、即ち建物と、寺域の庭など含めて、それらは代々の住職と信徒の信仰の象徴であると言われたことである。今回ご参加くださった方々それぞれに心に残つた印象を、吾々の朝日寺の現在と将来について考へる糧として頂けたら、それがうした巡拝を年々行つてゐることに、意義あらしめるものではないかと思ひます。

表面对りづく
にも、貝がら層、浪形岩が露出してて、県
指定の名勝ということであつた。
こゝでは昼食をさせて頂き、住職は寺の来
歴、寺苑の歴史のこと、源平時代、那須与一
一族とのゆかり等を説明してくださり、又、
邑久町方面の知人の消息なども尋ねられ、去
りがたい思いであつた。

四国靈場巡り

庄田 三浦 謹次

新春を迎えて明けましておめでとうございま
す。光陰矢の如しと言われますが、誠に月日
の過ぎるのは早いものです。特別に何をした
でもなくもう一年が過ぎてしましましたが、
世相は実に目まぐるしく変る昨日です。現代
技術の粋を集め創られた本四連絡の瀬戸大橋
も近く完成し、本年四月には一般交通利用も
出来ると言われています。経済の進歩と共に
あらゆる文化と技術はますゞ身辺にその恩
恵を感じるようになりました。しかし私は達
した環境の中につつて次第に順応され人
の心のゆとりさが薄れがちとなるものです。
心のゆとりは日常のすべてに影響し健康で
楽しい暮しが出来るものと思っています。
朝日寺では数年前から有志の皆さんで四国

土砂加持法会・晋山式をふり返つて

八十八ヶ所のお大師様参り行事がなされていました。私は昨年はじめて同行させていただきました。二十余ヶ所のお寺にお参りしましたが良い環境に立派に管理された建物は昔を忍



四国巡拝参加者一同

朝日寺墓苑について

ご希望の方々の為に、第二期分として十二
区画を造成いたしました。いずれも九平米で
す。一区画二十七万円、管理料月三百円です。
皆先生の喜びに当り、直ちに申し込み下さい。

ばせる本当に心のゆとりが感じられ大変ありがたいものでした。ふと思い出した菅江真澄遊覧記の一節で、旅先で日が暮れ、一宿を頼んだところ一粒の米も持たない者をお泊めすることは出来ないと断られたが、食事はなくとも足りる疲れを休ませるだけでよいと笑ったところ、それではどういひよ、と言ふところ

短歌稚児行列

稚児行列の先頭ゆける若僧のならす法螺貝
にござモテ
短歌行列 中東坂口一海

（○）總代長　○副總代長　△靈場巡り
虫前問下尾敷大市西高渡庄
大土助内田
明泊口寺張井東場部郎
岩田千種司郎
△ 岸玉正一
松井泰吾
谷龟
山本清四郎
（○）島岡篤
坂口一海
松井金次郎
藤本太郎
松木調二郎
木下政男
川野健郎
川野忠義
藤本安治
稻生
内田
内田
武内勝友
山田
実男
内田
長次郎
山本
种草
立司
山本
荣

總代會役員

十三仏巡り

十三仏巡り

ります。これは、子供さんがないとか、様な理由でお墓を守りする事が出来ない方の、
に寺の方で替わってお祭りをするものです。
納骨料二十五万円、墓碑料五万円ですが、
春・秋の彼岸、お盆には花をたて、お供え
し読経を致します。

十三仏巡り

密教婦人会役員

錫杖を響かせ乍ら入門す白装束の寺總代の
人は参道に設けし献燭数百の中しづしずと稚児
列ゆく
花の冠さゆらせ乍ら稚児のかんばせ手に持
て菊の花をかざして
修行大師の除幕につづき晋山式決意せる若
の眉ぞ美しく
稚児行列晋山式に土砂加持と大任果たせし
岡総代長

祝晋山式

大土井 児玉 道子

○ 浅尾小美佐恵	○ 坂上都	△ 優玉菊枝	○ 井前早子	△ 藤岡花子	○ 田瀬里津子
橋本安子	釜井多美子	心光速子	谷政子	山本光子	八塚よね
○ 水野幸子	○ 長寿初枝	○ 山本八重野	○ 田内照子	○ 武内笑子	○ 内田照子
川野君子	久本	久本	日	日	日
山本松香	久本	久本	日	日	日